

読むこと 指導のポイント その1 (文学的な文章の解釈)

教科書には、**魅力的な文学作品**がたくさん載っています。これらの教材で、何を指導すればよいのでしょうか。

→ **学習指導要領解説の指導事項**、これが児童生徒に身に付けさせたい力になります。ここをしっかりと覚えて指導内容を決定していきましょう。

小学校 指導事項

第1・2学年

場面の様子について、登場人物の行動中心に想像を広げながら読むこと。

第3・4学年

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

第5・6学年

登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

中学校 指導事項

第1学年

文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。

場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

第2学年

文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

第3学年

文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

作品を場面ごとに分け、詳細に読み取るこれまでの授業では、上記の力は十分身につくまでにはなりません。

そこで大切になってくるのは……

- 9年間を見通した指導 → 系統性を踏まえた指導
- ポイントを絞った指導 → 重点を置くべき指導事項を繰り返し指導
- 並行読書 → 同じ作者、同じテーマの作品など
(児童生徒に選択させることが大切です。)
- 作品に対する自分の考えをもたせる。(主題を教えるのではありません。)
→ 「自分の考えの形成に関する指導事項」が位置づけられています。
※ 伝え合う活動の重視にもつながっていきます。